

学習指導案「小麦の日本への輸入」

1 テーマ

パンの原料である小麦はどのようにして私たちのところに届くのでしょうか。

2 本学習指導案の活用場面

5年小単元「工業生産を支える運輸と貿易」の学習では、わが国の主な輸入品や輸入先について学習します。通常はその段階で終わりますが、ここでは、子どもたちに馴染みのあるパンなどの原料になる「小麦」に焦点を当て、外国で生産された小麦がどのようにして日本に届けられているのかを具体的に学習する際の指導例を示しています。

なお、単元「私たちの生活と食料生産」の最終で取り上げられる小単元「これからの食料生産」の学習で「食料自給率」を扱う際に、発展的に学習する場面を設けて指導する事例としても活用することもできます。

3 教材活用のポイント

ここでは、「外国の小麦が日本に届くまで」を使用します。各場面の動画やイラスト、写真を見ることができます。また、「小麦を運ぶ専用船（ばら積み船）」がイラストで示されており、積み込む様子を動画などで確かめることができます。

4 目標

日本に輸入される小麦は、生産地から港までは貨物鉄道で運ばれ、そこからは小麦を運ぶ専用船（ばら積み船）で日本に運ばれてくることや、専用船にはさまざまな工夫がなされていることを理解することができる。

5 学習展開（1時間扱い）

主な発問・指示 / 押さえない事項	資料（*）と配慮事項
1 パンの原料は何ですか。それは日本の国内でまかなわれていますか。 ・およそ464万トン（2023年度）※を輸入している。 ・わが国で使用する小麦の約80％を輸入に頼っている。 2 小麦は世界のどこから輸入されていますか。 ・アメリカ、カナダなど ・わが国は小麦を世界のいろいろな国から輸入している。 3 学習のめあて（今日の課題）を確認する。 パンの原料である小麦は外国からどのようにして私たちのところへ届くのでしょうか。	◎授業の冒頭で、わが国は小麦の多くを外国から輸入していることを押さえる。 ※（出所）農林水産省「麦の需給に関する見通しの公表について」 ①外国の小麦の産地 * 2023年度、小麦の輸入先（統計地図）

4 外国で生産された小麦は、産地から港までどのように運ばれていますか。 ・農家の人は、トラックで小麦を倉庫に運び、そこでいったん保存される ・そこから、貨物列車などによって陸上輸送で運ばれる。 5 外国の港から日本の港に何で運ばれますか。 ・船（海上輸送） ・「ばら積み船」といわれる専用船 6 「ばら積み船」について調べてみましょう。 ・船にはつぶのまま積み込むので、たくさん運べる。 ・船の中の倉庫はいくつかの区画に分かれている。 →種類の異なる小麦と混ざらないように。船のバランスをとるため。 ・小麦のほかに、とうもろこしや鉄鉱石なども運ぶ。 7 日本の港からは、どのように運ばれますか。 ・港では、ニューマチックアンローダーという機械で吸い込んで、港の倉庫（サイロ）にいったん蓄えられる。 ・港からコンベアやトラックで製粉工場に運ぶ。 ・港から船で別の港に運ぶ。 8 外国の小麦は、日本にどのように届けられるのかを調べてわかったことを輸送手段に着目してまとめましょう。 (まとめの文例) 外国の小麦の産地から港まではトラックや貨物列車などによって陸上輸送され、外国の港から日本の港までは小麦を運ぶ専用船で海上輸送されている。日本の港からはトラックや船などで製粉工場に運ばれる。製粉工場からはトラックでパン工場に運ばれ、つくられたパンは私たちのところに届けられる。陸上輸送と海上輸送がリレーされている。	*「外国の小麦が日本に届くまで」 (動画とイラスト、写真による構成図) ④海上輸送 *「小麦専用船」(イラスト) ◎ここでは、小麦を専用船に積み込む際の工夫とその理由を考えさせたい。 *ニューマチックアンローダー（動画） ◎まとめる際には、改めて「外国の小麦が日本に届くまで」(写真やイラスト、動画)を思い起こさせ、輸送手段に注目するよう助言する。 ◎小麦を生産する農家から私たちの家庭までを想定してまとめるよう助言する。
--	--